

## 総合演習

## 授業案フォーマット

授業タイトル：こんなときどうする？

**子供の設定**

- 地域の特徴
 

都市郊外の小さな住宅街。最寄り駅まで時間がかかる様な家庭が多く、学校までの距離もある程度遠いため 20 分以上歩く子どもが多い。自然環境が良く、畑や田んぼなどが残る地域である。

全ての学校には特別支援学級は無く、障害に対する理解がまだ薄い地域といえる。例えば、支援を必要とする児童に対し、地域の児童が指をさしたり悪口を言ったりする姿を登下校用の道や公共施設で見かけることがある。保護者の中には、支援を必要とする児童が授業妨害することに対して自分の子どもが勉強に集中出来ないと学校に苦情を言う人がいる。また、支援を必要とする児童がいることはその保護者の愛情が不足していたせいだと考え、支援を必要とする児童の保護者に対しての偏見を持ち陰口を言う保護者も存在する。この様な日常場面から、障害に対する理解がより必要であると考え。
- 学年
 

小学校 3 年生
- 子供達の構成
  - ・高機能自閉症の児童 A 君（無記名の予定）がクラスに 1 人いる
 

…男児。言語・知的レベルは遅れがないため、知らない人が A 君に少し関わっただけでは、高機能自閉症だと判断しにくい。通常学級での学習には遅れずについていけるが、相手の気持ちを考えることが苦手で意思伝達の質的障害がある。負けず嫌いで、ゲームで負けるとイライラしたりパニックになったりしてしまう。こだわり（反復性）があり、環境の変化、天気の変化にとまどうことがある。自分自身が「自閉症」だということは本人は知らず、その言葉も知らないで意識的な理解はしていない。家族構成は、A 君は 4 人家族の長男で、支援を必要としない小学 1 年生の妹がいる。A 君の保護者は A 君には特別支援学校ではなく通常学級で勉強することで、対人コミュニケーションや社会性を学んで欲しいと考えこの学校に入れた。担任教師と自閉症の児童の保護者の間では、随時連絡帳を用いて児童の学校での様子を共有している。
  - ・A 君が所属しているクラス
 

…男女比は 5：5 で 30 人程度の児童がいる。特別支援教室は無く、補助教員は専属ではついていないがたまにボランティアの学生がつくことがある。外国籍の児童はいない。
  - ・A 君が所属するクラスのクラスメイト※
 

…A 君との関わりの中で上手い出来ないことがある、問題が起きることがある。例えば、クラスメイトが支援を必要とする児童から思いやりのない言葉を言われた時に更に言い返し、言い合いになることがある。またクラスメイトが支援を必要とする児童から思いやりのない言葉を言われた時に泣いてしまうだけで、支援を必要とする児童は泣く理由が理解出来ないので謝らず、問題が解決しない時がある。

※「クラスメイト」…以後、A 君以外のクラスの児童を指す

**教師の問題意識**

①支援を必要とする児童とクラスメイトとの間に以下のようなトラブルが多いことから、高機能自閉症についてより理解できる機会を子ども達に提供したいと考える。

- 例：・支援を必要とする児童に対し、クラスメイトが指をさしたり悪口を言ったりする。
- ・支援を必要とする児童は、クラスメイトに対して相手が傷つくという気持ちを考えないような言葉を言って傷つけてしまうことがある。（例：「デブ！」「死ね！」等）
  - ・クラスメイトが支援を必要とする児童から思いやりのない言葉を言われた時に更に言い返し、言い合いになる。（例：支援を必要とする児童「死ね！」⇒クラスメイト「お前が死ねよ！」）
  - ・クラスメイトが支援を必要とする児童から思いやりのない言葉を言われた時に、泣いてしまう。支援を必要とする児童は、泣く理由が理解出来ないので謝らない。

②偏見や差別を持つ児童・保護者がいることから、それらをなくし高機能自閉症についての事実や研究に基づいた理解を得てほしいと考える。

- 例：・支援を必要とする児童が自分の子どもに悪影響を及ぼすと怖れている保護者がいる  
 ・保護者は自分の子どもに、支援を必要とする児童を過度に特別扱い※するよう促すことがある  
 (※「過度に特別扱い」：支援を必要とする児童を支援の必要がない子どもと差別し、必要以上に気を使うこと。例えば、保護者が「○○ちゃん(支援を必要とする児童)は、少しあなたとは違って変わっているから、優しくしなきゃだめよ。」というような言葉を言うことが挙げられる。)

授業目的 (目に見えなくても構いません)

高機能自閉症に対して、クラスメイトと保護者と自閉症の児童は以下のような事実や研究に基づいた理解を得る。

「事実や研究に基づいた理解を得る」

…以下①②を理解し、③を達成すること。

※ 自閉症の児童は、①を理解し、②はクラスメイトとの関わり方・接し方について考える。

- ①高機能自閉症の児童の特徴  
⇒相手の気持ちを理解しにくい、自分の気持ちを伝えることが苦手、感情を制御出来ない
- ②高機能自閉症の児童との関わり方・接し方  
⇒感情を制御出来ない言動に対して落ち着いて対応する、感情を制御出来ない言動の理由を理解しようとする  
例：高機能自閉症の児童に突然暴力をふるわれた場合、相手に嫌な気持ちになることをしっかり伝え、うまく解決出来なさそうな時は教師や大人に助けを求める。
- ③高機能自閉症に対する偏見(上述)をなくす

子供達の到達目標 (目に見える具体的なものにします)

- 1.高機能自閉症の児童との接し方について、クラスメイトは改善点やみんなができることを挙げられる
- 2.トラブルを回避したり、うまく解決することが出来る
- 3.高機能自閉症の児童は暴言・暴力を振るう回数が減る
- 4.クラスメイトは、高機能自閉症の児童がゆっくり気持ちを伝えられるような環境作りに協力出来る  
(例：話を聞く)
- 5.高機能自閉症の児童とクラスメイトと一緒に遊ぶようになる

授業計画 授業目的を達成するために必要な授業数と各授業の概要

| 授業回数 | テーマ                  | 各授業での子供達の具体的な達成目標  |
|------|----------------------|--|
| 1    | こんなときどうする？<br>(授業参観) | 紙芝居を通して、高機能自閉症の特徴を挙げられる。<br>対応の仕方を考え、高機能自閉症の人との関わり方について改善点をワークシートに記入する事が出来る。 |
| 2    | どう関わっていくか？           | ワークシートの三つめの項目を記入することで、高機能自閉症の人の気持ちを考えられる。<br>前回考えた対応方法をシミュレーションする事が出来る。      |
| 3    | どうか関わっていくか？<br>まとめ   | 実践を通して、高機能自閉症の子と関わる上でのクラス内のルールを決める事が出来る                                      |

本時の授業： 上記の表の 1 回目の授業 (模擬授業は上記の授業計画の中の1つの授業をします)

本時の授業でのポイントや指導上の注意点

指導上の注意点)

- ・事前に、この授業をすることについて保護者と学校管理職の先生方から理解と了承を得ておく  
⇒保護者には、保護者会で説明する

- ・高機能自閉症の児童が孤立しないように指導法を配慮する  
例：高機能自閉症の児童の名前を出さない、高機能自閉症の児童だけが問題の原因だというイメージを抱かせない（誰にでもあり得る問題だと伝える）

ポイント)

- ・支援の必要がない子同士でのトラブルについても応用できる事を指導する  
⇒ワークシートに書いた場面は、支援の必要がない子にとっても起こり得る場面に設定した。

**授業方法**なぜ、その授業方法／教材、etc.を選んだのか？

- 紙芝居  
⇒・児童の視覚に訴えやすく、理解しやすい ・児童にとって身近な問題だと認識できる
- ワークシート  
⇒・教師が黒板に書く、児童がノートに書く時間が短縮できる  
・配布した紙に記入する事で、教師が回収して内容確認がしやすい  
・自分の経験と照らし合わせて考えることが出来る

**参考文献**

- ①品川裕香著、『気になる子がわくわく育つ授業 成功事例編』, 小学館
- ②杉山登志郎著、『発達障害の子どもたち』, 講談社
- ③原仁、笹森洋樹編著、『イラスト版 ADHD のともだちを理解する本』, 2008年初版, 合同出版株式会社
- ④ニキ・リンコ、藤家寛子著、『自閉っ子、こういう風にできてます!』, 花風社
- ⑤國分康孝(編集代表),『教室で行う特別支援教育(育てるカウンセリングによる教室課題対応全書)』, 2003年初版, 図書文化
- ⑥NPO 法人東京都自閉症協会, <http://www.autism.jp/>

**本時の授業**

| 流れ | 教師の指示内容   | 教師の動きなど  | 時間  |
|----|---|--|-----|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●単元説明<br/>「今回の総合の授業は「友達との関わり方」について3回の授業を通して考えたいと思います」</li> <li>●導入の発問「みんなの中で、ドッジボールをしたことがある人！」<br/>前にいた学校でドッジボールの試合中に起こった話という前提で紙芝居を読む (くちひろ&gt;パート (約3分))</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症の児童が孤立しないよう注意して導入を行う</li> <li>・児童を見渡しながらか読んでいく</li> <li>・児童が想像しやすいように、話の強弱や感情をつけて読む</li> </ul>  | 5分  |
| 展開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●ワークシート《1》を書く(約5分)<br/>「みんななら太郎君にどのような言葉を言ったり、行動をとったりしますか？ワークシート《1》に書いてみましょう」<br/>→正直に書かせる</li> <li>●クラス全体で発表する(約10分)<br/>「今書いてくれた意見を発表できる人は手をあげて発表してください」<br/>→4, 5人に発表させる 板書をする<br/>(予想できる意見:「バカって言い返すと思う」<br/>「人のせいにするなよ、って言う」<br/>「暴れているのを抑える」)</li> <li>●&lt;ぴーちゃん&gt;パートを読む。(約5分)</li> <li>●ワークシート《2》を書く(約5分)<br/>「今の話を聞いて、なにか変わったことはあるかな？ワークシート《2》のところに、もう一度、どのような言葉を言ったり、行動をとったりするか書いてみ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配布</li> <li>・なかなか思いつかない児童に対して、期間巡視をして書けるように働きかける</li> <li>・必要に応じて児童の記入内容を取り上げる</li> <li>・期間巡視をして発表するのが苦手な児童に対してサポートをする</li> <li>・期間巡視をして発表するのが苦手な児童に対してサポー</li> </ul> | 35分 |

|     |   |   |    |
|-----|---|---|----|
|     | <p>ましょう」</p> <p>●クラス全体で発表する（約10分）<br/> 「1番で書いたことと2番で書いたこと、両方の意見を発表してください」<br/> →4, 5人に発表させる 板書をする<br/> （予想できる意見：「やめてとはっきり言う」<br/> 「話を聞いてみる」<br/> 「バカとは言わない」<br/> 軽くまとめる。《1》と比較して、変わった部分を強調する</p>                    | <p>トをする</p> <p>・発表希望者がいない場合は、こちらから発表出来そうな子を指す</p> <p>・いい意見が出たらほめる</p> |    |
| まとめ | <p>●&lt;なつみ&gt;パートを読む<br/> 「では、紙芝居の続きがあるので、読んでいきましょう」</p> <p>●まとめの言葉<br/> このポイントだけは押さえる<br/> <b>「相手の気持ちを考えて、行動したりすることが大事」</b><br/> <b>「言葉をわかりやすく言うことが大事」</b></p> <p>●次の授業へのつなぎ<br/> 「次は今日やったことを劇にして実際にやってみましょう」</p> |   | 5分 |

**評価** 子供達の達成目標が達成できたかどうか、何を判断基準にするか？何をもって、この授業の評価にするか？

**クラスメイト**

- ・ワークシート紙芝居後の項目で、感情的ではなく冷静な対応を挙げることができる。
- ・自分で考えついた意見をグループ内で発表できる。

**高機能自閉症の子**

- ・ワークシート紙芝居後の項目で、感情的ではなく冷静な対応（深呼吸をする、など）を挙げることができる。

（子供達が達成すべき目標に照らして、子供達の評価、この授業の評価をします。何をもって、この授業の目的を果たせたと判断するか？修正が必要な場合は、どのように修正していくか？などを書きます。）